

乙 第 号

守川 義信 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	鶴屋 和彦
論文審査担当者	委員	教授	高橋 裕
	委員(指導教員)	教授	斎藤 能彦

主論文

Handgrip Strength is an Independent Predictor of Cardiovascular Outcomes in Diabetes Mellitus

握力は、糖尿病患者の心血管イベントの独立した予測因子である

Yoshinobu Morikawa, Rika Kawakami, Manabu Horii, Yuta Yamamoto,

Matahiro Yabuta, Yoshihiko Saito.

International Heart Journal. 2021;62(1):50-56.

論文審査の要旨

申請者は、2型糖尿病の教育入院患者161例を対象に、サルコペニアや握力と心血管イベントの関係について検討した。主要評価項目はMACE（心血管死、致命的でない心筋梗塞、不安定狭心症、新たに発症した狭心症、心不全及び脳卒中）の複合事象で、非サルコペニア群と比較しサルコペニア群では、MACEのリスクが有意に高く、コックス比例ハザードの多変量解析において、CAVI（cardio-ankle vascular index）と握力がMACEの独立した予測因子として特定された。

本研究は、心血管疾患の病歴がない糖尿病患者において、心血管イベントの予測因子としてサルコペニアの指標である握力の有用性を示唆した初めての報告で、フレイル症例に対する運動療法の効果指標としての握力の意義を新たに提唱できた点で評価できる。市中病院に勤務しながら入院患者のデータを収集・解析し、論文として発表したことについても高く評価できる。公聴会の発表は、要点が要領よくまとめられ、非常にわかりやすかった。質疑応答についても、通常関連する糖尿病、高血圧、脂質異常などが今回関連因子にならなかった理由、男女別の解析、握力と運動習慣、研究の目的と検討方法、サルコペニアが内皮機能障害に関連する機序などについて質問され、本研究の限界とともに十分な考察を含めて適切かつ明快に回答が行われた。以上より、本研究は医学博士の学位に十分値する非常に有益な研究と評価する。

参 考 論 文

1. Aerobic interval exercise training in the afternoon reduces attacks of coronary spastic angina in conjunction with improvement in endothelial function, oxidative stress, and inflammation

Morikawa Y, Mizuno Y, Harada E, Katoh D, Kashiwagi Y, Morita S,

Yoshimura M, Uemura S, Saito Y, Yasue H.

Coron Artery Dis. 2013 May;24(3):177-182.

2. Morphological features of coronary arteries in patients with coronary spastic angina: assessment with intracoronary optical coherence tomography

Morikawa Y, Uemura S, Ishigami K, Soeda T, Okayama S, Takemoto Y,

Onoue K, Somekawa S, Nishida T, Takeda Y, Kawata H, Horii M, Saito Y.

Int J Cardiol. 2011 Feb 3;146(3):334-340.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに循環器病態制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和3年3月9日

学位審査委員長

腎臓病態制御医学

教授 鶴屋 和彦

学位審査委員

糖尿病・内分泌内科学

教授 高橋 裕

学位審査委員(指導教員)

循環器病態制御医学

教授 斎藤 能彦